

研修所講師メッセージ

心体を鍛え、技を持って

文●見留知弘 写真●西田太郎



舞台に立ちながら、研修生に教えるようになって、十四年が過ぎました。
坂東玉三郎さんからも、後輩に教えなさい、伝えなさいと、お言葉を頂き、ツアーを離れて研修所へ集中稽古に行く、近年、人に教えるということは、自分に返ってくるものが多く、再確認になり、教えていることがどんどん明確になって、その動きに理由や説明が出来るようになってき

ました。研修生が上手になってくると、成果が見えて嬉しいものです。その反面、成果が出ないということは、教え方が良くないのではないかと悩んだりも。

研修生に求めるのは、技術や上手さではない。まずは体力と根性。これがなければその上に技術はのらない、つまり、しっかりした土台(基礎)がなければ、家(技)は建たないのです。教えたいたいののはその先にあるのに、太鼓を叩く体力がなければ、その先に行けない。だから体力と根性が必要なのです。

また、芸は教えてもらうのではなく、見て盗め！ という言葉にもあるように、すぐに出来なくても、見て覚えておいて、自分のもの出来るように稽古を繋げていけば、上達の近道だと思います。

そして、物を大切にすること。

太鼓やバチや台などを大切にしない者は、上達はしないぞ！ この言葉は、初めて教える時には、必ず言っているといます。太鼓も愛情を持って接していかなければ、音で返してくれませんし、バチというのは相棒であって、太鼓打ちにとってなくてはならない大事な存在なんだと、ある方から教えてもらいました。

研修所での二年間は、太鼓や踊りや唄の稽古以外にも色々な習い事や農作業があったりと、じっくりと取り組むゆとりはないかもしれませんが、その経験が自分の引き出しになります。自分が舞台上がっている姿を思い浮かべて、目標に向けて稽古に精進して欲しいと思います。努力は裏切らない！

研修所講師の先生方(敬称略)

- 佐藤利夫 [講義] 佐渡研究者
- 福島徹夫 [講義] 元・新潟県栽培漁業センター所長
- 桃井宗生 [茶道] 裏千家学校茶道教授
- 松永政雄 [能] 宝清流教授嘱託
- 小笠原匡 [狂言] 能楽師和泉流狂言方
- 金城光枝 [琉球舞踊] 琉球舞踊家
- 岩手県盛岡市黒川さんさ踊り保存会
- 岡田京子 [歌] 作曲家
- 伊藤多喜雄 [唄] 民謡歌手
- 赤塚五行 [俳句] 新潟日報佐渡版俳句選者
- 熊田勝博 [講義] 照明家
- 葛原正巳 [陶芸]
- 西須殉治 [木工] 指物師
- 岩崎ちひろ [魚のさばき方] 魚屋
- 松田祐樹 [講義] 佐渡の芸能研究者
- 狩野泰一 [笛] 篠笛奏者
- 金子竜太郎 [太鼓など] 和太鼓奏者

鼓童メンバー講師

- 内容／太鼓、踊り、唄、笛、身体ケア、舞台実習、農作業、造形、講義、英会話、生活全般など
- 講師／大井良明、藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、大井キヨ子、山口幹文、齊藤栄、見留知弘、新井武志、堀つばさ、石塚充(補佐)、辻勝、船橋裕一郎、砂畑好江、阿部研三、青木孝夫、菅野敦司、山口康子、千田倫子、石原泰彦、後藤美奈子、松浦充長、土橋達也、メロニーティラー